

経営比較分析表（令和6年度決算）

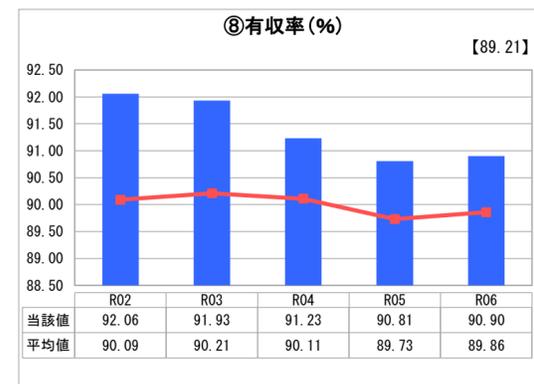
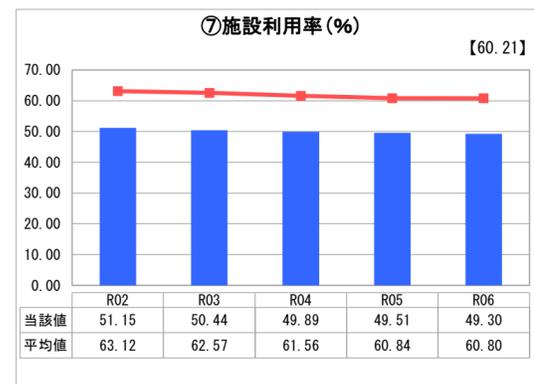
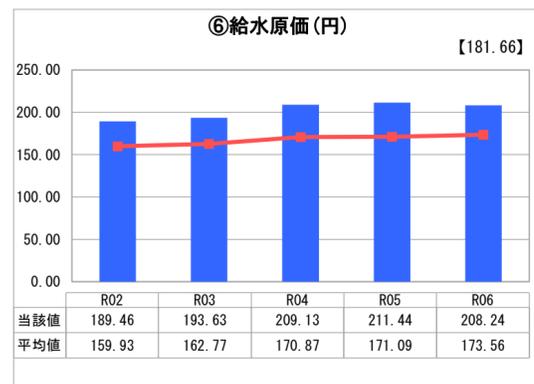
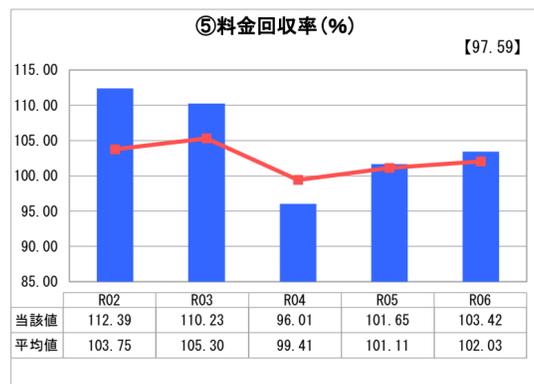
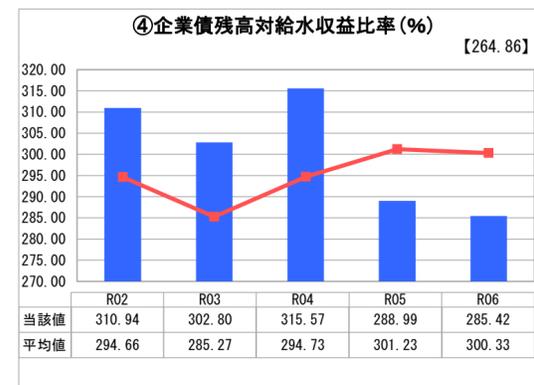
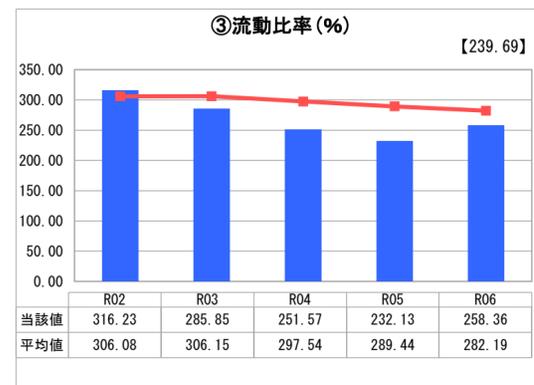
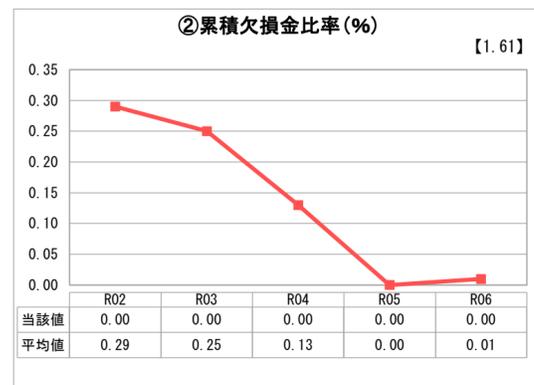
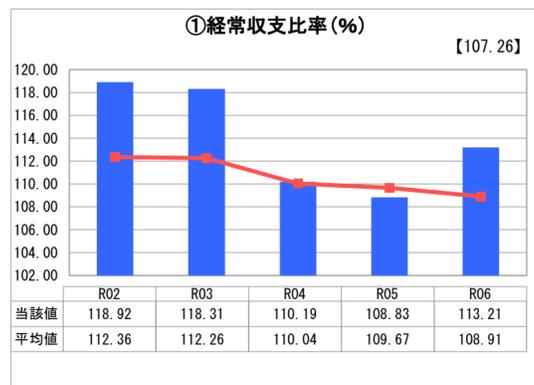
山形県 山形市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	72.33	98.38	3,509	

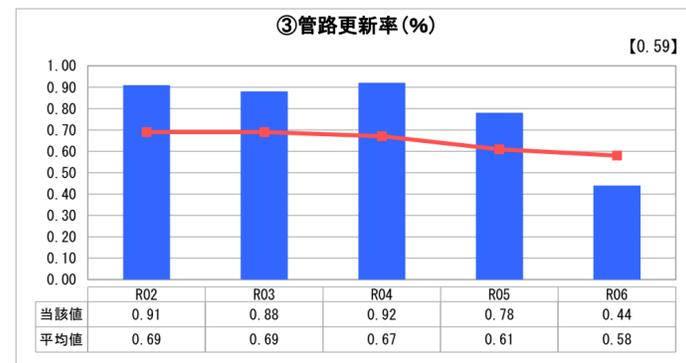
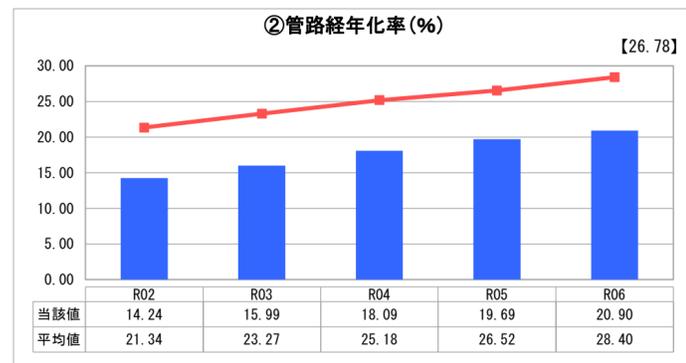
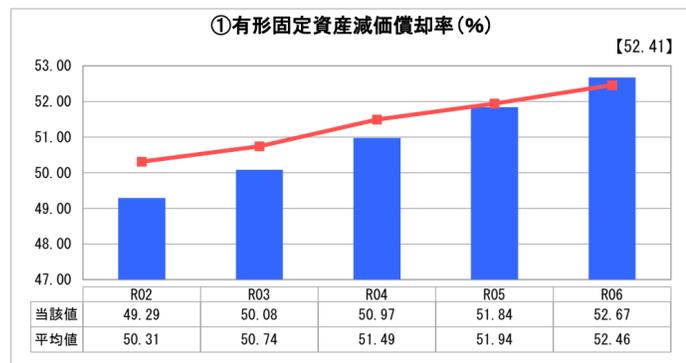
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
236,164	381.30	619.37
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
230,806	137.84	1,674.45

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、有収水量及び給水収益が減少したものの、営業外収益の増加と経常費用の減少により、前年度及び類似団体平均値を上回り、黒字経営を示す100%以上を維持している。
 ② 累積欠損金比率は、累積した損失がないため0%である。
 ③ 流動比率は、100%以上を維持しており、1年以内の債務に対応できる現金を十分に確保できている。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は、企業債残高の減少により、前年度及び類似団体平均値を下回った。
 ⑤ 料金回収率は、経常費用の減少により、前年度及び類似団体平均値を上回り、事業に必要な費用を給水収益で賄われていることを示す100%以上となっている。
 ⑥ 給水原価は、主な水源が地下水ではなく河川やダムであることや、傾斜のある地形的条件により、薬品費など浄水のための経費や、ポンプ場の動力費など配水のための経費がかかるため、類似団体平均値を上回っている。
 ⑦ 施設利用率は、類似団体平均値を下回っており、効率性が低い状態が続いている。
 ⑧ 有収率は、効率的な漏水調査と修繕、計画的な老朽管の更新により、前年度及び類似団体平均値を上回っている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、類似団体と同程度であるが上昇傾向にあり、資産の老朽化が進行している。
 ② 管路経年化率は、年々上昇しているが、類似団体平均値を下回っている。
 ③ 管路更新率は、老朽管の更新よりも配水場移転に伴う管路新設等を重点的に行ったことで、管路の総延長が伸びたため、前年度及び類似団体平均値を下回った。

全体総括

水道事業の主たる財源である給水収益の減少と物価高騰等による経常費用の増加により経営状況は厳しさを増している。
 一方で、多くの水道施設が順次更新時期を迎え、更新需要が増加することから、企業債の借入れによる財源の確保が必要である。
 また、水需要は減少傾向であり施設利用率も低いことから、更新時期を見据えた施設の維持管理、施設の統廃合や適正な規模による更新が課題となっている。
 今後も引き続き経費削減に努めるとともに、「山形市上下水道事業基本計画NEXTビジョン2023」の施策を着実に実施し、健全経営を維持できるよう努める。そして、事業の健全経営とサービス水準を維持するため、適正な水道料金について検証を行っていく。